

三菱UFJリート不動産株ファンド ＜米ドル投資型＞（3ヵ月決算型）

愛称：メトロポリス

追加型投信／国内／資産複合 特化型

作成対象期間：2023年4月11日～2023年10月10日

第 33 期 決算日：2023年7月10日

第 34 期 決算日：2023年10月10日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、主として外国投資信託への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している不動産株式およびリートを実質的な主要投資対象とするとともに、実質的な保有円建て資産に対し、円売り・米ドル買いの為替取引を行い、値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざす運用を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第34期末（2023年10月10日）	
基準価額	10,000円
純資産総額	936百万円
第33期～第34期	
騰落率	+28.6%
分配金合計 ^(*)	825円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第33期～第34期：2023年4月11日～2023年10月10日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第33期首	8,415円
第34期末	10,000円
既払分配金	825円
騰落率	28.6%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ28.6% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

> 基準価額の主な変動要因

上昇要因

外国為替市場で円安・米ドル高が進行し国内企業の業績改善期待が高まったことや、個人消費の強さなどから米国経済が景気後退入りしないとの見方が強まったことが好感されたことなどを背景に、不動産株式市況及び国内リート市況が上昇したことがプラスに寄与しました。

米ドルが対円で上昇したことなどがプラスに寄与しました。

2023年4月11日～2023年10月10日

1万口当たりの費用明細

項目	第33期～第34期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	60	0.602	(a)信託報酬=作成期中の平均基準価額×信託報酬率×(作成期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(20)	(0.203)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(38)	(0.385)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.002	(b)その他費用=作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	60	0.604	

作成期中の平均基準価額は、9,895円です。

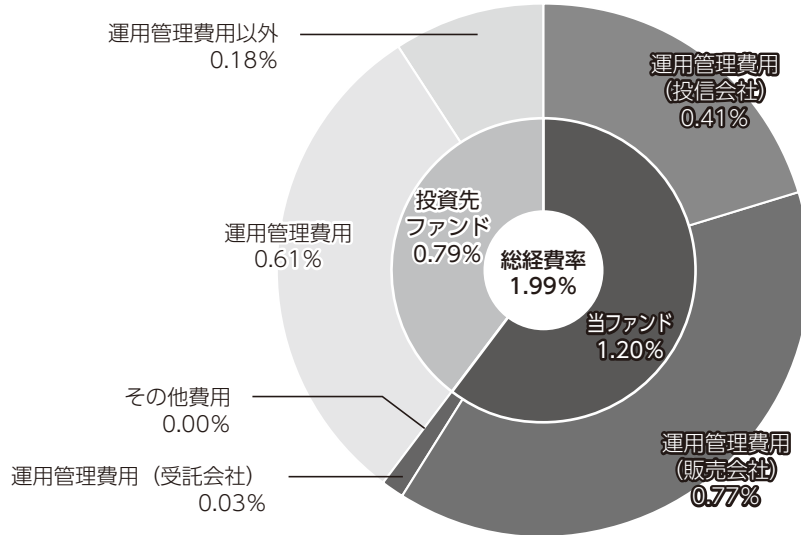
- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.99%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.99
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.20
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.61
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.18

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) ②の費用は、投資先ファンドの受託会社に対する固定報酬が含まれています。

(注) 入手し得る情報において含まれていない費用はありません。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年10月10日～2023年10月10日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2018年10月10日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2018/10/10 期初	2019/10/10 決算日	2020/10/12 決算日	2021/10/11 決算日	2022/10/11 決算日	2023/10/10 決算日
基準価額 (円)	8,619	9,816	8,004	9,844	10,000	10,000
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	6	342	2,974	825
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	13.9	-18.4	27.2	34.9	8.2
純資産総額 (百万円)	3,063	2,563	1,588	1,392	1,153	936

※ファンド年間騰落率は、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第33期～第34期：2023年4月11日～2023年10月10日

投資環境について

▶ 株式・リート市況

不動産株式市況や国内リート市況は上昇しました。

当期間の不動産株式市況及び国内リート市況は、高水準のオフィス・ビル空室率や賃料の下落基調が継続していることに加えて、日銀が金利操作の柔軟化を決めるなど金融政策修正による国内金利の上昇などを受けて一時的に下落する局面もあったものの、外国為替市場で円安・米ドル高が進行し国内企業の業績改善期待が高まったことや、個人消費の強さなどから米国経済が景気後退入りしないとの見方が強まったことなどを好感し、国内株式市況が上昇したことなどを背景に上昇しました。当期間を通してみると不動産株式市況及び国内リート市況は上昇しました。

▶ 為替市況

米ドルは対円で上昇しました。

日米金利差拡大などから米ドルは対円で上昇しました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移しました。

当期間の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、足下のコール・レートは-0.030%となりました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ リート不動産株ファンド<米ドル投資型> (3ヵ月決算型)

外国投資信託であるリート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラスを高位に組み入れた運用を行いました。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

▶ リート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラス

わが国の金融商品取引所に上場している不動産株式およびリートを主要投資対象とするとともに、保有円建て資産に対し円売り・米ドル買いの為替取引を行う運用を行いました。

投資する株式およびリートについては、東京圏における売上・収益依存が高い、あるいは今後の売上・収益の拡大が期待され、東京圏の経済活性化により恩恵を受けるか等の観点で選別した不動産株式

と、保有物件が主として東京圏にある国内リートの中から、将来のキャッシュフロー予測、保有不動産価値評価、業績予想等の分析に基づき、銘柄選定を行いました。

組入銘柄数は46~51銘柄程度で推移させました。

主な売買動向については、住友不動産などを新規に組み入れ、東急不動産ホールディングス、大和ハウスリート投資法人、日本都市ファンド投資法人などのウエイトを引き上げました。一方でいちごオフィスリート投資法人などを全売却し、オープンハウスグループ、G L P 投資法人、日本プロロジスリート投資法人などのウエイトを引き下げました。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド コール・ローン等短期金融商品を活用し、 利子等収益の確保を図りました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第33期	第34期
	2023年4月11日～2023年7月10日	2023年7月11日～2023年10月10日
当期分配金 (対基準価額比率)	－ (－%)	825 (7.621%)
当期の収益	－	292
当期の収益以外	－	532
翌期繰越分配対象額	1,122	781

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱UFJ リート不動産株ファンド<米ドル投資型> (3ヵ月決算型)

外国投資信託への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している不動産株式およびリートを高位に組み入れた運用を行います。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行います。

▶ リート アンド リアルエステートエクイティ ファンド 米ドル・クラス

欧米における金融引き締め長期化による世界景気などへの影響を見極める必要はありますが、米国を中心に各種物価指数は概ねピークアウトの傾向が続いています。また、日銀も更なる金融政策の修正については慎重に進めていくと考えており、不動産株式市況及び国内リート市況は堅調に推移するとみています。このような市況見通しのもと、個別銘柄ごと

の業績動向を見極めて選別投資を行っていく方針です。

東京圏の経済活性化の恩恵を受ける不動産株式および保有物件が主として東京圏にあるリートの中から、将来のキャッシュフロー予測、保有不動産価値評価、業績予想の分析に基づき、業績が安定的かつバリュエーション面で割安感のある銘柄への投資を中心に行います。

なお、保有円建て資産に対し、円売り・米ドル買いの為替取引を行います。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローン等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・委託会社の商号変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。
2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更しました。
(2023年10月1日)

▶ その他

- ・該当事項はありません。

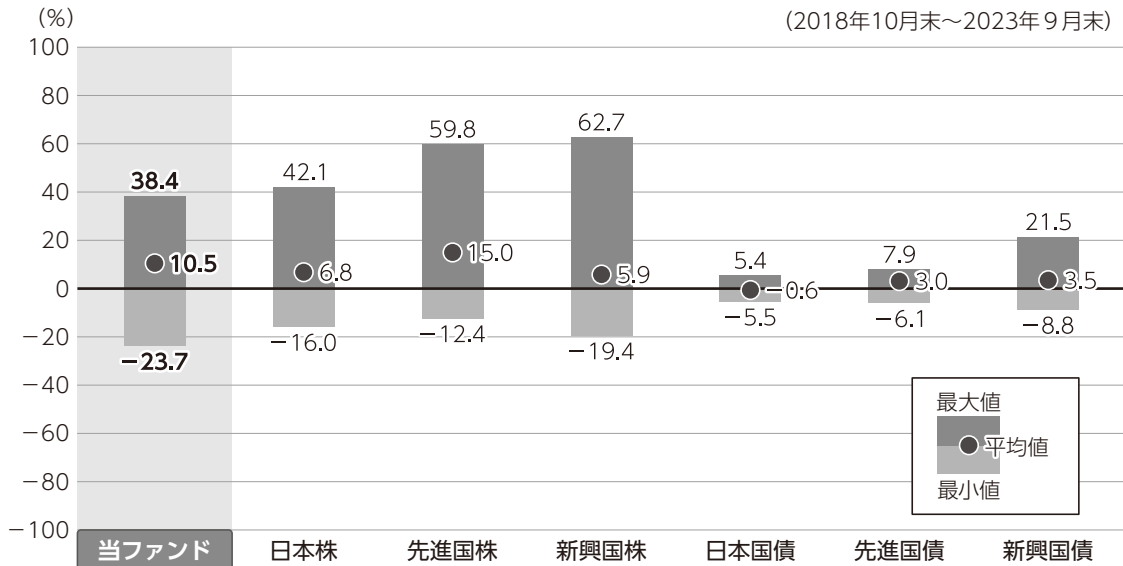
*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／資産複合 特化型
信託期間	2025年4月10日まで (2015年5月8日設定)
運用方針	<p>円建ての外国投資信託であるJリート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラスの投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の金融商品取引所に上場している不動産株式および不動産投資信託証券に実質的な投資を行います。また、当該外国投資信託への投資を通じて、実質的な保有円建て資産に対し、円売り・米ドル買いの為替取引を行います (このため、基準価額は米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。)。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。円建ての外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。わが国の不動産株式およびリーートの運用にあたっては、三菱UFJアセットマネジメントの助言のもと、三菱UFJアセット・マネジメント (UK) が行います。また、為替取引の運用は、クレディ・スイス・マネジメント (ケイマン) リミテッドが行います。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド Jリート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラスおよびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■Jリート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラス 日本の不動産株式および不動産投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド わが国の公社債等を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	わが国の金融商品取引所に上場している不動産株式および不動産投資信託証券への実質的な投資に加えて、実質的な保有円建て資産に対し、円売り・米ドル買いの為替取引を行い、値上がり利益の獲得および配当収益の確保をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。原則として、決算日の基準価額水準 (分配前) が当初元本額10,000円 (10,000口当たり) を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

- ファンドは特化型運用を行います。一般社団法人投資信託協会は信用リスク集中回避を目的とした投資制限（分散投資規制）を設けており、投資対象に支配的な銘柄（寄与度*が10%を超える又は超える可能性の高い銘柄）が存在し、又は存在することとなる可能性が高いものを、特化型としています。
- ファンドは、わが国の不動産株式およびリートに実質的に投資します。わが国の不動産株式およびリートには、寄与度が10%を超える又は超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。
*寄与度とは、投資対象候補銘柄の時価総額の合計額における一発行体あたりの時価総額が占める比率または運用管理等に用いる指数における一発行体あたりの構成比率を指します。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年10月から2023年9月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2023年10月10日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第34期末 2023年10月10日
Jリート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラス	88.3%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.3%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

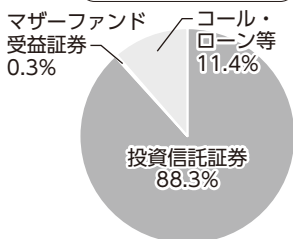
純資産等

項目	第33期末 2023年7月10日	第34期末 2023年10月10日
純資産総額 (円)	1,052,041,348	936,248,733
受益権口数 (口)	1,074,740,703	936,292,197
1万口当たり基準価額 (円)	9,789	10,000

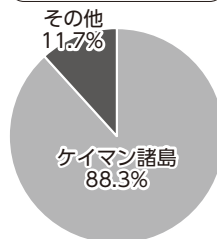
※当作成期間中（第33期～第34期）において追加設定元本は42,799,976円
同解約元本は 251,393,904円です。

種別構成等

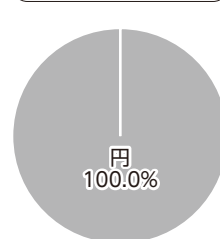
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先としてのファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

2022年9月30日現在

組入上位ファンドの概要

▶ リート アンド リアルエステート エクイティ ファンド 米ドル・クラス

基準価額の推移

2021年9月30日～2022年9月30日
(円)

1万口当たりの費用明細

2021年10月1日～2022年9月30日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

基準価額の推移以外の開示情報につきましては、クラス分けされたものがないため、「リート アンド リアルエステート エクイティ ファンド」ベースで表示しています。

▶ リート アンド リアルエステート エクイティ ファンド

組入上位10銘柄

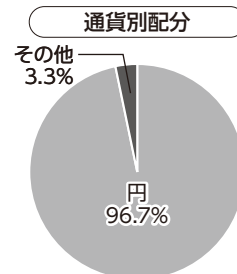
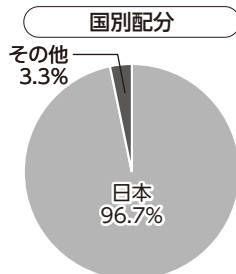
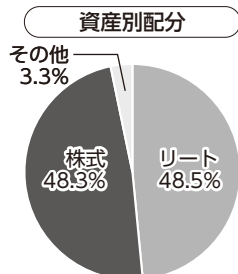
(組入銘柄数：45銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/用途	比率(%)
1	MITSUI FUDOSAN CO LTD	株式	日本	不動産業	12.1
2	MITSUBISHI ESTATE CO LTD	株式	日本	不動産業	11.6
3	NOMURA REAL ESTATE HOLDINGS	株式	日本	不動産業	4.8
4	MORI TRUST HOTEL REIT INC	リート	日本	ホテル・リゾート	4.7
5	FRONTIER REAL ESTATE INVEST	リート	日本	店舗用	4.5
6	JAPAN AIRPORT TERMINAL CO	株式	日本	不動産業	3.9
7	OPEN HOUSE GROUP CO LTD	株式	日本	不動産業	3.9
8	NIPPON BUILDING FUND INC	リート	日本	オフィス	3.4
9	SEKISUI HOUSE REIT INC	リート	日本	各種・分散投資型	3.3
10	TOKYU FUDOSAN HOLDINGS CORP	株式	日本	不動産業	3.2

※リーートの用途はGICS (世界産業分類基準)、不動産株式の業種は東証33業種に基づいて分類しています。
※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等



※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

968469

2023年5月22日現在

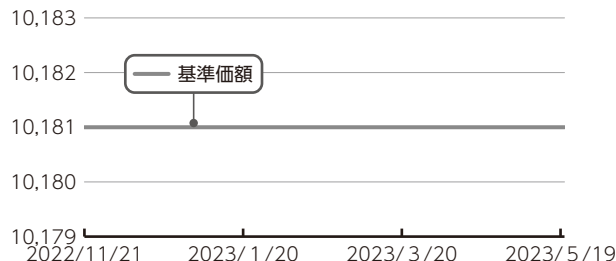
組入上位ファンドの概要

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2022年11月21日～2023年5月22日

(円)



1万口当たりの費用明細

2022年11月22日～2023年5月22日

当期において費用が発生していないため、費用明細は作成しておりません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：3銘柄)

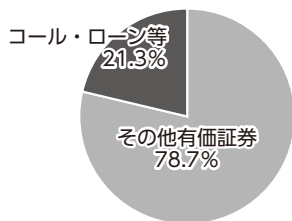
	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	セントラルガラス 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	68.4
2	ブンゼ 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	6.8
3	アミカスF 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	3.4
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

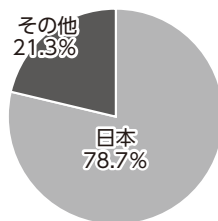
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

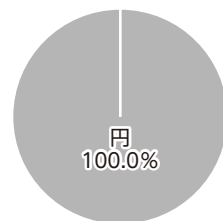
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先としてのファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

●MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJアセットマネジメント